

自己消化させたアガリクスによる抗腫瘍効果の向上

Improvement of Anti-tumor Effect of Autolyzed-Agaricus blazei Murill.

○尾上 伸二, 井口 隆文, 渡辺 敏郎, 永井 史郎

ヤエガキ醗酵技研株式会社

The anti-tumor effect of autolyzed *Agaricus blazei*(autolyzed-AG) was studied. The autolyzed –AG extracts or native AG extracts were orally administrated for 10 days to mice which were implanted sarcoma-180 cell. After 19 days, the incidence and weight of tumor were investigated. Autolyzed-AG had stronger anti-tumor effect than native AG. These results suggested that anti-tumor effect of AG was improved by autolysis treatment.

【目的】

アガリクスをはじめ、キノコ類の中には、それを摂取することにより、抗腫瘍作用を示すことが知られているが、キノコの種類や性質によって、抗腫瘍作用の程度に差が認められている。我々は、アガリクスを自己消化処理させることによって、マウスの抗腫瘍作用に対して効果に違いが認められるか否かを検討した。

【方法】

アガリクスの粉末を蒸留水に懸濁し、その pH を 5.5 に調整した後、37℃で4時間、更に、100℃で1時間抽出させたものをアガリクス自己消化抽出物(autolyzed-AG)とした。一方、同じ原料を蒸留水に懸濁した後、ただちに100℃で1時間抽出させたものを、アガリクス抽出物（AG）とした。1日あたり10mgの各抽出物を、サルコーマ-180細胞を背部に移植した1群10匹のICRマウスに対して、10日間経口投与し、移植後19日目で、背部の固形ガンを取り出し、その重量測定により、抗腫瘍作用を評価した。

【結果】

蒸留水を投与した（対照群）マウスに対して、AG投与群のマウスの腫瘍重量は、約54%、Autolyzed-AG投与群のマウスの腫瘍重量は、約71%抑制されていた。

【結論】

アガリクスは、それ自体でも、抗腫瘍作用を有するが、自己消化処理を施すことによって、抗腫瘍作用が更に向上することが示された。